

# みずみどり

2000年1月15日 第16号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>

〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598

板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589

## 新年会のおしらせ

よいお正月を迎えられたことと思います。今年もよろしくお願ひいたします。

いたばし水と緑の会の会員数もついに100名を突破しました。自然に対する考え方、思いは人さまざまです。「私はこう思う」「オレはこれがやりたい」が集まって、「私達はこう思う」「私たちは責任をもって提案します」となるような共通の根っこができつつあるような気がします。

さて、3回目の新年会のご案内です。忙しくて会合や活動に出られない方は新年会だけでも来てください。

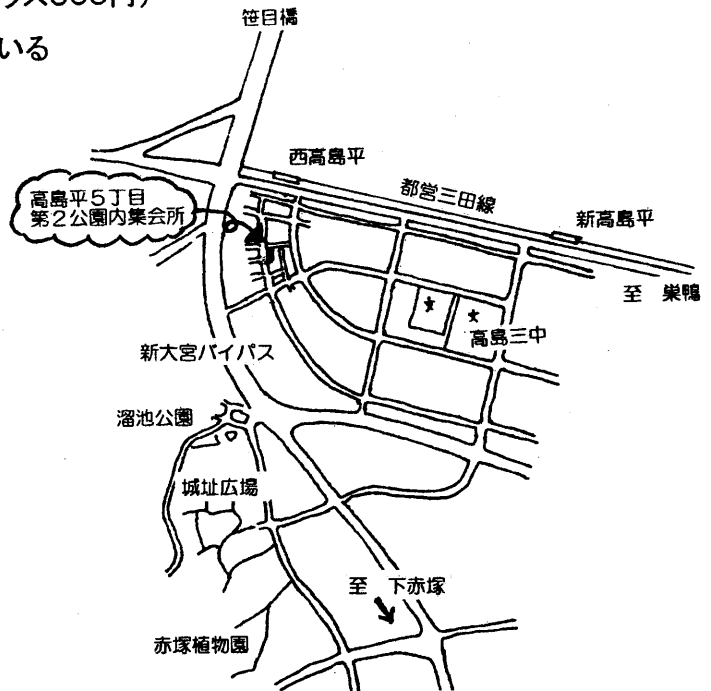
日時：1月22日(土)午後2時半から

場所：高島平5丁目第2公園集会所(地下鉄西高島平駅から5分)

会費：1000円(たくさん飲む人はプラス500円)

その他：水と緑の会の名札を持っている

人はつけてください。



## 「赤塚の森」から思うこと。

赤塚の森ボランティアリーダー 島井 誠司

(大東文化大学 生物・生態学研究室)

いま私たちが住んでいる日本列島は、もともとそのほとんど全域が立派な森でうっそうと覆われていました。人間は当然森の恵みを受けて、他の動物たちと同じように自然はくくに育まれながら生きていたのです。やがて稲作が伝来してからは湿地帯の森はことごとく排除され、身近な自然の森も消滅や、人間のための森になり、急激に自然の改変が進みました。人間は生きていくうえで、農業に使う落ち葉掻きや、燃料のための木を伐採するなど、それは必然的に行なわれたことでした。しかし、今日に見られる人間生活の様々な活動は、さらに多くの森を消失させ、遠くの山々の森でさえ有用材としてのスギ林やヒノキ林へと姿を変えてしまいました。その勢いはいまでも衰えることはなく、とくに近年の都市への人口の集中は、ますます自然との関わりから遠ざかることとなりました。

ここ板橋区内では赤塚地区の台地と低地の境界に沿って斜面林ころが辛うじて残っていますが、立派に見えるこの「赤塚の森」も、かつては原生林のように広がりがあった森が、その後の長い歴史のあいだに面積は狭くなり、人間生活と深く関わりをもつ森へと改変されて、一時期にはいまに見るような「赤塚の森」とはかなり違った姿でした。例えば戦前の赤塚城址の斜面には、いまでは少なくなったアカマツの林が発達していましたし、戦時中はそのアカマツの根が

掘り起こされて松根油を採るなど、その頃の森はとことんまで利用されていたのです。戦後は時とともに人びとの生き方は大きく変化し、日常的に森に頼るようなことが少なくなりました。やがて人びとは森から遠ざかるようになり、その結果として赤塚城址の斜面には多様な植物たちの再生がはじまりました。初期には陽の光を求めやしるたくさんの植物で藪のような状態であった斜面でも、自然の法則はその後多くの木々を生長させ、それ以来 50 年以上経過した現在ではコナラやイヌシデが優占した見事な森が成立しています。すでに自然林としての構成種が林内に多数出現し、このまま良好に生育していくならば、やがて長い時間をかけながらもかつてのバランスがとれた原生的な森きょくそうりん（極相林）へと姿を変えていき、それにつれていろいろな動物たちの生活も、まるで自分のふるさとかのようきょくそうりんに、きっと戻ってくることでしょう。

一般に、人間の生活領域に近い樹林地は定期的に「下刈り」が行なわれる傾向があり、現在の「赤塚の森」も例外ではなく、過去に幾たびかは「下刈り」を受けています。これは樹林地の景観や林内の美観や安全の維持として行なわれてきたものです。このように、新たに芽生える生命を抑え込むような「下刈り」が繰り返されることは、結果として再生力の強い特定の種の繁栄がある一方、再生力が弱い種は人為的に絶

滅へと追い込まれることが考えられます。普通、その場の植生を構成している種組成や構造は常に一定であることはなく、植物に限らずその他のすべての生きものも相互に関わり合いを保ちながら生態系を維持しています。森の中が「荒れるにまかせている」とか「下草が伸び放題である」という見方は、あくまでも人間中心の考え方であり、いまや生活に豊かさを得た人間は、もうこの辺で森を自然の摂理に任せるという基本に返ってはどうだろう。人間にとって「自然との共生」ということは、すなわち人間は自然の一員であって、その自然を排斥しては自らも存在し得ないという認識のことですが、だからといって「自然への理解」を口実に自然

との触れ合いを強調する動きは、結果的には人間の干渉が過度になるという危険が常にはらんでいることを知っておくべきでしょう。「赤塚の森」のように急斜面でしかも狭い地域や、水辺のような場所は非常にデリケートであり、植生の復元力が弱いため、常に人為を遠ざけておくことが肝要で、裸地化を防止するための唯一の方策です。多様な生物によって生態系が維持され、願わくはそれが拡大して未来へつながることこそ現代に課せられた考え方であると思います。「自然は未来からの借り物」ということを思い起こし、未来の森に思いを馳せながら辛うじて生き残っている森をそっとしてあげるようにして自然に返す時ではないでしょうか。

## 城址広場に自然がもどってくる

赤塚の森ボランティアでは、赤塚公園の自然回復をテーマに活動しています。これまで、自然に配慮した管理をしてほしいとお願いするとともに、私たちでできることを提案してきました。その一つ、広場の草地の回復について、一歩前進することができるようになりました。

昨年8月28日、自然回復ボランティア活動講座シリーズのひとつ「チョウやバッタをさがそう」のフィールドとなった赤塚公園（城址広場）では、草丈が20cm位に伸びていて、バッタがたくさん見つかりました。続く9月18日の「落とし穴で昆虫調査」のときは、広場は草刈りをした後でしたが、あれだけいたバッタがみんないなくなっていました。

赤塚公園管理所には、少しでも草が伸びる

と苦情がくるといいます。草むらは汚いと思う人もいるようですが、生き物にとっては都会で少なくなった生息環境のひとつです。

10月に東京都公園協会の公園維持管理担当の方と現場で意見交換をしたときに、広場の一部を自然草地にすることが了解されました。その面積は、地図上でおおざっぱな計算をしたところではなんと1400㎡！。

条件は、人が利用する場所との境界を柵などで明確にする、歩ける道を作る、趣旨を説明する看板をつける、手前側は少し低めの草丈にしてほしい、というものでした。

枝を整理した竹もどっさり用意されました。秋には鳴く虫を聞く会をひらきたいですね。

(事務局)

## 徳丸が原公園に自然池を復活させよう

大西 優

徳丸が原公園は都営三田線の高島平駅の北方約300mの所で、同公園内には、野球場、テニスコート、児童遊園、子供動物園などがあります。また、隣地には高島一小があり、100m内外の所には中学校、幼稚園などもある住宅街の中の公園で、老年から幼児まで幅広い年齢層の人たちにより利用されています。

今回の会で行うピオトープを作る上においては、そういった住民の意見を取り入れ、愛され、親しみがあり、四季の変化を楽しんでもらえるものができればよいと思います。

区においても将来には現況のままではなく、私たちの考えと同様に自然池として“子供たちが自然と親しむ場所にしたい”と考えているという話もあります。

私は、自然は自然の中にあり、住宅地の外側にあるものと考えてきましたが、住宅地もかつては野生の動物が棲み、植物が茂っていた所で、人が住み、家を建て、道路を通して来たのも、自然から見れば自然の流れではないかと思う。

このような街の中だから動・植物の生息空間（ピオトープ）を造り出せば昆虫やいろいろな植物が自生してくるのではないかと思うのです。

私達が考えたのは、防水シートを張って、その上に土をかぶせる方法です。12月5日、池となる部分を3ヶ所試掘し、土質の状態を調査し、また池全体の測量を行いました。

現在の池が作られ池であり、昔水田だったことから、上層は良質の表土があり、その下層は

赤土の粘土でした。

埋め戻しに使用されている土は、ガレキなどが思ったより少なく、試掘は楽でした。

中央の水が流れているコンクリートの部分は、しっかりした基礎で作られていて地盤沈下していないと考えると、周囲の土表面はコンクリートの縁より2~4cm低く、この土の部分はいくらか地盤沈下していると思われた（元々は水があり、現在は無いので、土が緻密になったり、踏み固められたこともあると思うが）。

ピオトープを作ろうとしている所の面積は、女性陣活躍による三角測量結果を計算すると、約115㎡、中央のコンクリート部分の面積は約35㎡。池の底を深さ約30cm掘り下げると見積もると、25m<sup>3</sup>程度の土を移動する必要があります。

追記：測量した数値や試し堀の時の写真は環境保全課にあります。



## 徳丸が原公園自然池予定地の調査に参加して

丸谷 厚子

12月5日(土)午後、池の地下調査と測量を行いました。参加者は区役所から坂本・過・番匠さん、自然回復ボランティア受講生、水と緑の会の10数名でした。

大西さんの専門知識と技術指導で、調査は円滑に進み、地下調査と測量(面積)の2つのグループに分かれ、メジャーを持ち測る人、スコップで土を掘る、など、和気あいあいのうちに終わりました

しかし、調査の日を迎えるまでには何回も話

し合いがもたれました。それは、予算、自分たちで果たして測量などできるのか、不安材料はたくさんありましたが、大西さんの助言指導、専門的知識のおかげで実施の運びとなりました。調査終了後、大西さんのご好意で、北海道のおいしいジャガイモをいただき、疲れもいっぺんに吹き飛ばしてしまいました。

今後、徳丸が原公園自然池の活動にみなさまのご協力とご参加をお待ちしております。

## 赤塚公園(赤塚城址広場)の斜面林保護柵作り体験記

植田 隆夫

斜面林に人が入り林床が荒れています。保護柵は、林に人が入らないようにし、林の縁に草地を残して、林を守るために作ります。柵を作る場所は溜池側の山道と美術館裏のフェンスの間、長さは約40mあります。

この斜面林に保護柵ができれば4月に完成した自然池の後背地になり、水辺～斜面林～草地が繋がった自然の形になります。

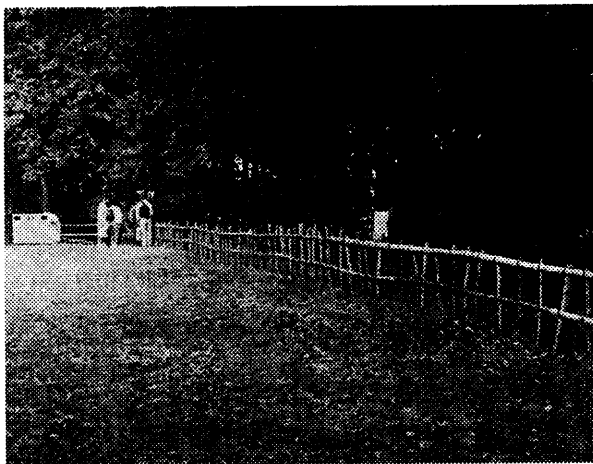
前書きはこれくらいにして、いざ体験記。

保護柵は杭を打ち込み、竹を横にはわして作ります。今回使った杭は半年前に公園の木を剪定した枝です。それを集めて杭になるように整理してとっておいたものを使いました。

6月27日 杭打ちを行いました。小雨模様の天気だったので、中止だろうなと思いつつ息子と2人で広場に行ってみると、20人ほ

どの人が参加していました。

最初は、杭となる剪定枝の先端を削る作業を行いました。ナタで先端を斜めに切り落とすのですが、なかなか大変。1～2本ならよいのですが、十数本近く作業をすると、ナタが杭に食い込んで取れなくなるし、手のひらにはマメ







淑徳中学校 2年C組

植田 英樹

僕は水と緑の会に入ってとてもよかったですと思っています。それは普段、都会ではなかなかできない、自然とふれあうことができ、また、自然についていろいろなことを学べたからです。他に、柵作りの時に木や竹を切りましたが、木を切るとき、ナタを使いましたが、案外重かったので、驚嘆し

ました。他にも、竹を切りましたが、その時、鉄製の十字型の刃物を竹に打ち込み、かなづちで叩くと、おもしろいことにきれいに切れました。

このように、都会の日常生活では、めったにできないことが、この会に入ったおかげでできました。だから、この会に入れば自然とふれあうことやいろいろなことも学べるし、体の健康にもいいし、一石二鳥を越えて、一石三鳥でした。

僕はこの会に入って、とても満足しています。

淑徳中学校 2年C組 庄子 勇飛

僕は中学校の同じクラスの人に誘われて、「竹を切って柵を作る」というボランティア活動に参加しました。最初はナタやのこぎりなど、ほとんど使用したことのない道具を使って作業をするので、不器用な僕ができるのか、とても心配でした。しかし、実際にナタやのこぎりを持って作業をしていくうちにだんだんおもしろくなってきま



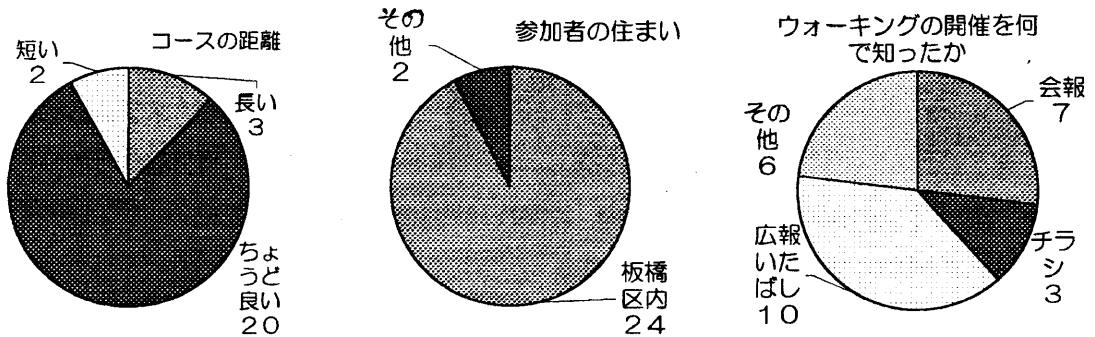
した。ボランティア活動のメンバーの方々も初体験の僕に優しく教えてくださって、とてもうれしかったです。みんな自然を心から愛している人たちなんだなあと思いました。みんなで協力して1つのことを達成するというのは本当にとっても素晴らしいことなんだなあ、改めて感動しました。そして、そんな素晴らしい人たちと一緒に自分が作業をしたというのがとてもうれしく感じました。

また、いつか機会があったらやってみたいなと思っています。

## 自然発見ウォーキング'99 その2

眞崎 哲二・美和子

前号の会報でご案内しましたように、昨年10月23日に開催された第2回自然発見ウォーキングで実施したアンケートの結果を以下の通り整理しました（回答数：26）。



また、「都市の自然」に関するイメージをたずねました。回答は、次の4つから選択していただきました（複数回答あり）。

- ①都会は人間が多く、自然にするのは無理だ。0
- ②雑草が伸びてきたない。きれいな草花を植えたほうが良い。2
- ③自然が少々破壊されても、子供がおもいきり遊べる場所がほしい。6
- ④草むらや茂みはきれいとは言えないが、生き物には必要なのかなと思う。21

ここでは、自然にするのは無理といった回答はありませんでしたが、今回のコースである城址周辺の自然が都市部にあっても残されていることによるものと考えられます。また、生き物に必要な自然というものに対してはよく理解されているようですが、一方で、雑草ではなくきれいな草花、自然保護だけでなく子供が遊べる場所といった要求もあります。これに関しては、城址周辺の自然と人との係わり方、自然地の保全のあり方など、現在議論が進められている事項が改めて問題提起されたといえるでしょう。

アンケートには、今回の自然発見ウォーキングについての感想を自由に書いていただきました。記入いただいたのは17名の方です。

その中では、身近にこのような自然があることを再認識したとの感想が多く寄せられ、いろいろなコースを設けてはとの意見、もっと参加者が増えるように宣伝をとの意見もありました。また、公園の桜の枝が切られていて残念だなど、公園管理に対する意見も寄せられました。

第2回自然発見ウォーキングは概ね好評であったと言えます。しかし、いろいろな感想をいただきましたので、これに甘んじることなく今後の活動に活かしていきたいと思えます。



## 不動の滝上の草むらが消えた!!

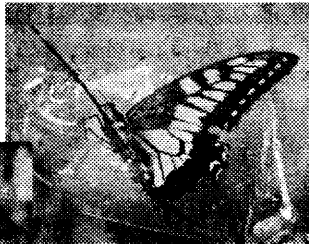
不動の滝の真上、草むらが広がり、隣は畑になっている。斜面の森、草原、畑と狭いながらつながった環境が残されている。ありふれた里山の風景、ただし30年前には。今、区内に残っているは、ここ（赤塚8-11）と西台1-3、7（環8取付道路の予定地になっている。）ぐらいかも知れない。

森の中にはアカガシ（1本だけだが）、林の際にはウバユリが数株、原にはムシトリナデシコ（これは帰化植物）が咲いていた。

### 畑と草むらの昆虫たち

去年の5月、キアゲハの幼虫が畑の縁のミツバで見つかった。最近、都区内ではめったに見られない蝶になってしまった。草原-畑地環境の減少が主因であろう。

ツバメシジミ  
▼99/9/23



▲キアゲハ 99/8/23

9月、ツバメシジミがいた。草原にしか住めない蝶、荒川河川敷には沢山いるが、他では成増4とこの2箇所（99年度調査分）のみ。30年前の普通種も今、滅亡寸前のようなのだ。

森と草原の境を好む、ルリシジミ、コミスジも良く見られる。

畑の柔らかい土には、シガバチやクロアナバチが幼虫を育てる巣穴を掘っている。畑や草地に住むガの幼虫やキリギリスの仲間を狩っ

て、巣穴に運ぶ単独性のハチたちだ。

ショウリョウバッタ、クビキリギリス、ツユムシ、エンマコオロギ等のバッタや鳴く虫も多く、私の絶好の自然鑑賞ポイントだった。

### 公園になってしまった! /

12月、公園になっていた。地面は締固められ、雨水は浸透しそうもない。草地に産み付けられていた虫の卵、地中に潜って冬を過ごそうとした虫たちは全て消えてしまった。区内に残っていた数少ない草むらの一つが消え、ありふれた都市公園が一つ増えた。

### これからはどう行動するか

不動の滝の水量を維持するため、ここは自然地として残される、と私たちは思い込んでいた。迂闊だった。情報不足だった。出来てしまったものは元に戻らない。役所側に一層の情報公開を求めるとともに、我々も情報の入手に力を入れたい。

この先自然を改変する工事は小規模でも、簡単な環境アセスメントを行う、という方向へ進められないものであろうか。（文責 釣巻岳人）



不動の滝上の草むら 99/9/23

## 板橋のミツバチ (2)

干場 英弘

### 都会のニホンミツバチの営巣場所

山里で田舎暮らしをしていた頃のニホンミツバチは木のうろなどに営巣し、飼育も主に中をくりぬいた木幹で行われていたが(もちろん今でも、山里ではそうだが)、都会では民家の外壁やベランダ、庭木周辺(木のうろはここでも多い)、公園

(図2)、時には工事中の高速道路(図3)にまで営巣することもある。閉鎖空間に営巣するのが多いが、図3のように開放空間でも営巣することがある。元来越冬がうまいのに加えてスズメバチやミツバチヘギイタダニなどの天敵に対応できる能力を持っているので、いったん都会に入ると飼育と言う保護を受けなくても自立できる。都内全体や日本全土(たぶん北海道を除く)の市街地で繁殖していると思われ、“都会人”ならず、“自立した都会バチ”になりきっている。時にはセイヨウミツバチも見かけるが、多くの場合近くで飼育していて、“自立”できない場合がほとんどである。

### ミツバチの危険性

ニホンミツバチは基本的におとなしく、人がいたずらしない限りめったに人を攻撃することはないので周辺に巣が出来ても、放っておけば危害はきわめて少ない。ただし、人通りが激しい場所や、子供の遊び場などは危険なので専門家に声をかけたほうが良い。初夏はミツバチ繁殖期である。新しく女王蜂が生まれると、今までいた旧女王蜂は仲間のおよそ半分の働きバチと共に新しい住居地を求めて外に出る。これが巣別れ(分封)で、多くのハチが周囲を狂ったように飛び回る。普通の人は恐れて当然であるが、この時のハチはきわめて上機嫌で、やがて一個所に集まる。この時に人が騒ぐとかえって刺されることがあるのでおとなしくなるのを待つ方が良い。数年前に私の勤務校の道路を隔てた隣のマンションの玄関にニホンミツバチが巣別れで群がったことがある。すぐ“出動”したので事無きを得たが、人通りの多いマンションの玄関とあってはヒヤヒヤものである。また、民家で「キンリョウヘン」という蘭を栽培している場合、開花時にニホンミツバチは特異的にこの花に集まる。この蘭を庭やベランダなどで多く栽培している家庭(マンションも含む)には大群が来る可能性がある。ニホンミツバチに比べてセイヨウミツバチは少し攻撃的な面があるが基本的には変わらない。いずれにせよ次回に書くように「油断大敵」である。<続く>



図2 交通公園に展示してある機関車内部に営巣した巣を処理している私。シャツの斑点模様は飛び交うハチ。左上に取り除いた巣のあとがある。



図3 高速道路工事現場で撮影(板橋区役所前) 下は中仙道で車の列が見える。開放空間に営巣。

## 湾処の生態系② 荒川生物生態園魚類調査の結果と人工湾処の効果

東京都立高島高等学校教諭 田川 健太

平成11年9月25日の自然回復ボランティア活動講座で、荒川生物生態園の水生物調査を行った。

### 調査方法

河川・湖沼における魚類の調査は、魚群探知機などで間接的にその生存を確認する以外は、何らかの方法で捕獲しなければならない。その捕獲の方法として、定置網、底引き網、手繰網、刺網、巻網、投網、すくい網、釣り、などの方法がある。今回は投網、定置網及び釣りで採集を行った。これらのうち、釣りは最も簡単な方法であるが、餌や仕掛けによってとれるものに偏りが生じる可能性がある。投網や定置網は選り好みをせず採集することができる。投網は少々練習すれば使えるようになる。定置網は仕掛けが大がかりなので面倒だが、効果は大きい。

### 調査結果

今回の調査において、魚類としてコイ目コイ科6種、スズキ目スズキ科2種、ボラ科1種、ハゼ科1種、ウナギ目ウナギ科1種、計11種、甲殻類としてエビ類が2種確認された。

このうちブルーギル *Lepomis macrochirus* は、1960年に米シカゴのシェッド水族館から日本に移入された。浮遊動物から底生動物、魚卵や小魚もよく食べる。筆者の観察した限りでは、ウキクサなどの植物も食べる。

このような大型肉食魚が数多く存在すること

は、生態系のバランスから考えて不自然なことである。外国から移入された魚類によって、日本在来種の減少が荒川でも考えられる。

表 調査結果

目・科名	種名	個体数
コイ目コイ科	タモロコ	11
	ギンブナ	5
	ヤリタナゴ	2
	ニゴイ	2
	コイ	1
	モツゴ	1
スズキ目スズキ科	ブルーギル	14
	スズキ	2
ハゼ科	マハゼ	57
ボラ科	ボラ	15
ウナギ目ウナギ科	ウナギ	1
十脚目テナガエビ科	スジエビ	多数
	テナガエビ	2

### 湾処の効果

淀川に比べれば生物生態園の湾処における種数は決して多くはない。しかし、場所が下流で海水が混ざる汽水域であることを考えると、その効果はあると見てよい。塩分濃度が高く抽水植物が生育しないのが難点であるが、これを克服すればすばらしい環境になる可能性がある。

きれいな川は私たちの心を和ませる。水辺にやすらぎを求めて出かけてみるのも良いのではないだろうか。(おわり)

# 活動のお知らせ

どなたでも参加できます。くわしいことは事務局(3579)2598まで。

## ●2月定例会

日時：2月4日(金)18:30~20:30

場所：産文ホール 第4会議室

## ●3月定例会

日時：3月3日(金)18:30~20:30

場所：産文ホール 第4会議室

## ●赤塚の森ボランティア

●1月例会(新年会があるので休みます)

●2月例会

日時：2月26日(土)13:30~

場所：三園1丁目集会所

## ●城址広場の草地保全柵

切った長い竹・剪定枝が竹林に山積みされています。これを使って広場の草原用の低い柵をつくります。1月は竹を切ったり、割ったり、2月から広場で柵づくり(杭打ち、横木渡し等)を行います。

1月の活動

日時：1月22日(土)10:00~12:00

場所：美術館集合

持ち物：軍手、タオルなど

2月の活動

日時：2月26日(土)10:00~12:00

場所：赤塚城址広場

持ち物：軍手、タオルなど

## ●自然池の清掃

溜池公園では3月に梅まつりが開かれます。

従来は今の自然池にステージがつくられていましたが、今回は別の場所に移ります。お祭り前に自然池を掃除します。

日時：2月27日(日)10:00~12:00

場所：美術館前

持ち物：軍手、タオル、長靴(あれば)、剪定ハサミ

## ●梅祭りPR

梅祭り会場でパネル展示をします。お手伝いくださる方は下記へ。

日時：3月4日(土)、5日(日)

10:00~16:00

場所：自然池前

連絡先：坂本(3579)2598

## ●竹グループ

竹とんぼづくりのほか、竹を使った実用品・手作り品をを試作します。アイデア提供大歓迎(毎月第1土曜日)どなたでも

日時：2月5日(土)13:30~16:00

3月 未定

場所：三園小学校地域活動教室

持ち物：軍手、小刀、

連絡先：猪鼻(3933)8269

## ●徳丸が原公園自然池づくり勉強会

公園の池の一部を、市民が主体になって生き物の住める水辺につくりかえます。日程未定。興味のある方は、大西(3938)3106または

下田(3955)0803まで